

残暑お見舞い申し上げます

会 長	大野 風柳	理 事	平田 朝子
理 事 長	竹本瓢太郎	理 事	赤井 花城
副理事長	久保田半蔵門	理 事	津田 暹
常務理事	磯野いさむ	理 事	栗石 隆子
常務理事	本田 智彦	理 事	松代 天鬼
常務理事	大木 俊秀	理 事	平山 繁夫
常務理事	岡崎 守	理 事	小島 蘭幸
常務理事	河内 天笑	理 事	佐藤 美文
理 事	成田 孤舟	監 事	井原みつ子
理 事	佐藤 岳俊	監 事	住田英比古
		監 事	天根 夢草

日川協通信 (105)

平成 24 年 9 月 1 日



(株)全日本川柳協会

〒530・0041 大阪市北区天神橋二丁目

電話 (06) 63552110

FAX (06) 63552243

振替口座 009700913575

<http://www.nissenkyou.or.jp>

あいさつ

会 長 大野 風柳

暑さがつづく毎日です。いかがお過ごしですか。私もがんばっております。いま、六大家を話題に乗せようという気運が高まっております。

明治の新川柳の出発から、大正、昭和にかけて六大家の活動とその精神を改めて顕彰しようという風の流れをひしひしと感じております。とくに昭和三十年代に入って、伝統と革新、そしてその中道を進む川柳集団が激しく川柳論争を戦わせたものです。しかもその頃は、短詩交流の会合も活発でした。今井鴨平を代表に、山村祐、高木夢二郎、雨宮八重夫らや、多くの川柳家がこれに参加していました。

当時(昭和20年〜昭和40年半ば)の川柳界は、東に川上三

太郎、前田雀郎、村田周魚、西に岸本水府、麻生路郎、梶元紋太が君臨し、それぞれが有力川柳社の代表として、川柳の普及と向上に全力をつくして活動されてきました。それぞれが確固たる志と川柳観を持って指導に当たられておりました。常に前へ前へと進む風を私たち後輩に与えてくれたものです。

いま、六大家をもう一度見つめようと、八月二十五日（川柳の日）に東京で「三大家を語る座談会」を川柳学会、台東川柳人連盟主催で開催されました。これをスタートとして六大家の顕彰を考えて参りたいと思っております。ご協力をお願い申し上げます。

徳島大会を振り返って

副理事長 久保田 半蔵門

第36回全日本川柳2012年徳島大会は時間厳守と言う問題を孕みながらも無事終えることが出来た。この大会に携わった皆さんにご苦労様と労いたい。

前夜祭は阿波観光ホテルで催されたが、徳島県知事飯泉嘉門氏も参加され大いに盛り上がった。表彰式も前年度開催地の仙台大会実行委員長長零石隆子さんへの感謝状、第5回川柳文学賞受賞者荻原鹿声氏の表彰と選考経過に

付いてなどはよかったと思っている。

本大会はあわぎんホールの大ホールで催されたが、会場の設定ほど難しいものはないとつくづく思った。事務をつかさどる部門、選者室等4Fと1Fとに隔たるとどうしても会場の進行と連絡の不徹底が起きる。既成の会場だから致し方なしと思うが次回への課題だろう。

私は二次選者だったので4Fから出ることも出来ず不便極まりなかったが、会場の進行状況を知りたかったが出来なかった。

アトラクションの「うずき連」による阿波踊りは会場が一体となって踊りに参加できたので大変好評だったようである。ジュニア部門も一般部門も披露・表彰に関しては問題がなかったが、冒頭触れた時間の遅延に関しては一考を要する。

次回開催地青森県への引継ぎも無事終わり、皆様方にご苦労様とお礼を再度言いたい。

報 告

（元幹事・常任幹事）平成24年1月以後（敬称略）

謹んでお悔み申し上げます。

逝去日	所属柳社名	お名前	年齢
3/14	川柳天守閣	久保田元紀	72
5/4	しみず川柳かすが	岩田笑酔	77
8/10	奈良番傘川柳会	松田俊彦	75

平成23年度収支計算書 収入の部
(平成23年4月1日～平成24年3月31日) (単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I 事業活動収入				
1. 基本財産運用収入	【50,000】	【49,060】	【940】	
基本財産利息収入	50,000	49,060	940	
2. 入会金収入	【6,000】	【6,000】	【0】	
柳社入会金	6,000	6,000	0	2社× ¥3,000-
個人入会金	0	0	0	
3. 会費収入	【6,187,000】	【5,908,000】	【279,000】	
理事会費	456,000	432,000	24,000	18名×¥24,000-
常任幹事会費	3,288,000	3,145,000	143,000	131名×¥24,000-
正会員会費 (団体)	2,331,000	2,233,000	98,000	319社× ¥7,000-
正会員会費 (個人)	112,000	98,000	14,000	14名× ¥7,000-
4. 事業収入	【11,860,000】	【11,897,332】	△ 【37,332】	
誌上大会	3,440,000	3,446,000	△ 6,000	第16集 1723名
全国大会	8,000,000	8,014,952	△ 14,952	仙台大会
表彰後援事業	420,000	436,380	△ 16,380	色紙・ホーム^-ジ^入力
5. 助成金収入	【600,000】	【600,000】	【0】	日本芸術文化振興会
6. 寄付金収入	【0】	【0】	【0】	
7. 雑 収 入	【3,410,000】	【610,000】	【2,800,000】	
大会支援積立金除却益	3,410,000	610,000	2,800,000	
当期収入合計 (A)	22,113,000	19,070,392	3,042,608	
前期繰越収支差額	0	267,975	△ 267,975	
収入合計 (B)	22,113,000	19,338,367	2,774,633	

平成 2 3 年度収支計算書 支出の部
(平成 2 3 年 4 月 1 日～平成 2 4 年 3 月 3 1 日) (単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
II 事業活動支出				
1. 事業費支出	【12,830,000】	【12,880,149】	△【50,149】	
臨時雇賃金	260,000	269,600	△ 9,600	
旅費交通費	640,000	641,760	△ 1,760	
通信運搬費	1,460,000	1,433,210	26,790	
印刷製本費	2,440,000	2,481,633	△ 41,633	
保険料	40,000	37,100	2,900	
諸謝金	630,000	640,000	△ 10,000	
表彰後援費	560,000	564,497	△ 4,497	
広告宣伝費	0	0	0	
実行委員会運営費	6,800,000	6,812,349	△ 12,349	
2. 管理費支出	【6,407,000】	【6,330,013】	【76,987】	
給料手当	3,527,000	3,491,100	35,900	
福利厚生費(慶弔)	10,000	10,640	△ 640	
会議費	340,000	330,779	9,221	
旅費交通費	70,000	105,460	△ 35,460	
通信運搬費	280,000	270,523	9,477	
消耗品費	270,000	247,941	22,059	
印刷製本費	230,000	229,740	260	
光熱水科費	100,000	101,656	△ 1,656	
賃借費	1,220,000	1,212,876	7,124	
火災保険料	0	0	0	
法定福利費	30,000	34,423	△ 4,423	
接待交際費	0	4,440	△ 4,440	
雑支出	330,000	290,435	39,565	
3. 退職給付引当資産取得支出	【150,000】	【150,000】	【0】	
4. 固定資産除却損	【10,000】	【0】	【10,000】	
5. 予備費支出	【0】	【0】	【0】	
当期支出合計 (C)	19,397,000	19,360,162	36,838	
当期収支差額 (A) - (C)	2,716,000	△ 289,770	3,005,770	
次期繰越収支差額 (B) - (C)	2,716,000	△ 21,795	2,737,795	

以上、決算報告書を監査した結果、正確妥当であることを認めます。

監 事 住田 英彦 

平成24年度 第1回理事會（六月九日）

東西合同常任幹事會（六月十日）

通常總會（六月十日）

場所 理事会・阿波観光ホテル

總會・あわぎんホール

〈大会連続出席者〉

連続10回参加

定足数の確認のあと議事録署名者選出

阿部 弘子・中臺 一司

長尾 美和

第1号議案 平成23年度事業報告の件

連続15回参加

第2号議案 平成23年度収支決算報告

江畑 哲男・小林かりん

監査報告及び承認の件

第3号議案 定款の変更について

〈マスコミ柳壇の指導を10年以上行った者〉

第4号議案 一般社団法人移行申請の承認について

進藤すぎの

第5号議案 役員・人事について

〈第8回80歳以上の功労者顕彰〉

第6号議案 徳島全国大会表彰の件

佐々木文子・西來 みわ

第7号議案 平成25年度 全国大会開催の件

鈴木 東峰・奥田みつ子

塩見 草映

右の議案案件について審議の結果、理事會、總會で承認された。

〈第5回川柳文学賞〉

荻原 鹿声

第36回徳島大会選者

第一部 事前投句選者

（順不同・敬称略）

「踊る」 近江 あきら 選

「大人」 小梶 忠雄 選

「鈴」 大野 風太郎 選

「巡礼」 長江 時子 選

第二部 当日投句選者

「野心」 渡辺 梢 選

「カメラ」 新家 完司 選

「燃える」 植野 美津江 選

ジュニア部門

「呼ぶ」 堀江 加代 選

「おとな」 赤松 ますみ 選

「自由吟」 西 恵美子 選

第二次選者（順不同・敬称略）

久保田 半蔵門・赤井 花城

岡崎 守・堀井 勉

天根 夢草

第36回 全日本川柳 2012年 徳島大会

(当日 517名 / 事前 1,855名 / ジュニア 5,292名)

文部科学大臣賞

夕陽背に答の出ない巡礼者

岡山 藏内 明子

参議院議長賞

良心を写すカメラになる両目

茨城 船橋 豊

川柳 大賞

栄転の辞令は鼓笛隊と来る

東京 西潟賢一郎

大会 賞

わたしはバラ今の美貌に飽き足らぬ

愛媛 山内 郁代

人間が人間を呼ぶ燃えている

佐賀 西村 正紘

巡礼の轍平和の幾曲がり

秋田 加藤 円心

雲燃えて山の向うはなんだろう

島根 石橋 芳山

善人の仮面で踊る風見鶏

栃木 生田目昭夫

家系図に踊り上手とルビを振る

宮城 菅野 實

あの日からみんな大人になった海

三重 大嶋都嗣子

病気だと認識できぬ母に鈴

東京 上原 稔

一目惚れ光の束が火をつける

東京 深川きんぎょ

若者の歩き遍路に見る決意

香川 村尾美代子

出産の神秘カメラも息を吞む

徳島 福本 清美

ジュニア部門

徳島県知事賞

笑顔はね幸せを呼ぶま法だよ

広島 佐方小5 瀧 愛里奈

徳島市長賞

心もお母さんからもらったよ

高知 高岡第一小3 小松 愛花

徳島県教育長賞

耐えているきみの横顔もう大人

広島 吉和中2 斎藤 静

全日本川柳協会会長賞

桜さく一つ大人になれること

福島 小手小5 矢館 彩夏

起きなさい幸せタイムもう終わり

広島 中町小4 伊東 叶音

名前とは初めてもらおうプレゼント

広島 玖波小6 吉野 亜美

教育新聞社賞

人間として認めてくれる大人の目

広島 吉和中3 金黒 美沙

お母さん売り場の声にすいこまれ

岩手 寺田小5 山本 雄太

マラソンで止まりたい気をだまらせる

愛媛 小野小4 渡部紗也香

第十六回 全日本川柳誌上大会

(平成柳多留) 入 選 作 品

(参加者 1,731 名)

平成柳多留賞

逆風をいつか寄り添う風にする

大分 清池 羊子

川柳大賞

なでしこも心に龍を飼っていた

大阪 中崎布佐恵

NHK会長賞

すごいなあ龍を初めて描いた人

愛媛 栗田 忠士

日本青少年育成協会会長賞

子に渡すガラスケースの第九条

北海道 岩間 啓子

全日本川柳誌上大会賞

都会より星が近くにある故郷

兵庫 北野 哲男

逆らった父とおんなじ樹に登る

神奈川 富岡 桂子

胸内にガラスを秘めて介護する

宮城 齋藤てい子

トンネルを抜けたと被災地の便り

山形 樋口 一杯

前向きに歩く平面図の都会

神奈川 阿部闘句朗

第一次選者

「逆」

佐藤美文
酒井路也

「明るい」

いしがみ 鉄
三宅保州

「龍」

龍 三宅保州
及川竜太郎

「都」

奥田みつ子
山田昇

「ガラス」

矢沢和女
弘兼秀子

第二次選者

津田 暹
竹崎 ほか

佐藤 俊
松代 天

植木 利衛
西出 楓

植木 利衛

第5回川柳文学賞受賞作品

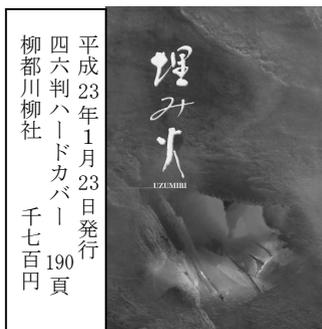
『埋み火』



荻原鹿声氏

二〇一二年六月九日、徳島県・阿波観光ホテルにて授賞式が行なわれ、大木俊秀選考委員長をはじめ、多数の川柳家にお集まりいただき、賞状、盾と副

賞10万円が、受賞された荻原鹿声氏に手渡されました。
第5回川柳文学賞は平成23年に発刊された句集のうち、申請のあった28冊を選考委員（大木俊秀・久保田半蔵門・平山繁夫・雫石隆子・林えり子（作家））5名（敬称略）が選考しました。



平成23年1月23日発行
四六判ハードカバー 190頁
柳都川柳社 千七百年

■ 総評 選考委員長…大木俊秀

今年の「川柳文学賞」には28冊の句集が寄せられた。ご参加くださった皆さんに厚く御礼を申し上げたい。選考委員は、久保田半蔵門、雫石隆子、林えり子、平山繁夫、大木俊秀の5人。各自がそれぞれ3冊を推選して日川協事務局にあらかじめ提出した。これまでは第1位を3点、第2位を2点、第3位を1点として得点を集計し、最高点を得た句集に「川柳文学賞」が贈られていたが、今回は選考委員が24年5月11日、大阪の日川協事務局に集まり、5人の推選理由をベースに討議の未決定するという方式をとった。委員会には、久保田、平山、大木の3人が出席。本田事務局長もオブザーバーとして同席した。

5人で3冊は15冊となるが、このうち3人から推挙されたものが1冊、2人から推されたものが2冊だった。したがって1票を得た句集は8冊となった。推選3冊の他にも、それに準ずる句集を出席3人の委員がそれぞれに持ち寄ったので、それらも含めて広く議論を交わした。その結果、3人から推されて6点を得た『埋み火』がやはり順当という結論に達した。

推選理由は次の通り。「この作品群には、伝統の抒情性に新しい可能性を見出そうとするひたすらさが触感され、現代川柳を追及するストイックな実践がある」（平山）。「川柳作家として充実期の十年分の作品に圧倒された。社会人として男としての生きざまと深い自省にたじろぐばかりだ。自らの人生を通しての社会批判も鋭い」（雫石）。「具象と抽象のほど良い絡みが、比喩の巧みさとレトリックのきめこまかさに支えられ、都市と田園

の両方から、しつかりと人間、人生、人世を見据えて、現代川柳の中道を行く姿を見る思いがした」（大木）。
来年も積極的なご参加をお願いしたい。

■ 主な掲載作品

- ・ デッサンのときは笑っていた家族
- ・ ヒロシマを越える片仮名みあたらず
- ・ よき父であったか夕暮れを歩く
- ・ 書けそうな気がするにわか雨上る
- ・ 幸せという妻の手が荒れている
- ・ 吹かないで下さい俺のしゃぼんだま
- ・ もう二度と鳴らないベルを待っている
- ・ 迷子にもなれずいつもの汽車に乗る
- ・ ふたひらの雪ひとひらを語りつく
- ・ ふるさとで小鳥が飲んだ水を飲む
- ・ さよならを寒い景色にはしない
- ・ 二つある判こどちらをしようか
- ・ 褪せてゆく自分が怖いから歩く
- ・ 透明になりたい石を積み重ね
- ・ 夕暮れのなかで指折る友の数
- ・ 私の臭いが消えぬ一夜干し
- ・ 鈍行で行く一冊の本愛す
- ・ 悲しくて篠突く雨のなかをゆく
- ・ 肩の荷を下ろし目刺しを南無と焼く

- ・ 鉛筆があれば静かに母と書く
- ・ 終りたくない埋もれ火を抱いてゆく
- ・ たましいが長い散歩に出ています
- ・ 信号を無視して駆けたことがある
- ・ 生きてきた証し折れてる傘の骨
- ・ 笑い皺なんと重たい海だろろう
- ・ 結論が出るまで返す砂時計
- ・ 人間が好きでときどき砂を吐く
- ・ 羽化するには一通がまだ来ない
- ・ 笑おうよ葉桜だって揺れている
- ・ 人間になろう小窓を開けておく

荻原鹿声氏略歴

昭和16年1月26日 栃木県鹿沼市に生れる
昭和33年頃より作句、投句を始める
昭和34年4月 栃木県を離れる
昭和44年5月 句集「独り旅」発刊
昭和53年3月 柳都川柳社同人
平成8年11月 句集「冬銀河」発刊
平成13年5月 句集「茶碗」発刊
平成19年10月 合同句集「隗」に参加
平成19年10月 栃木県日光市に移住
現在、柳都川柳社同人、宮城野川柳社同人
下野川柳会同人、かぬま川柳会会員
埼玉雑詠賞、川柳研究年度賞、川上三太郎賞、白石朝太郎賞
埼玉雑詠賞、川柳研究年度賞、川上三太郎賞、白石朝太郎賞
中村富二賞、略年間賞、大野風柳賞、白帆賞、宮城野賞（会員の部）
現代川柳大賞、相模原市文化祭賞、栃木県芸術祭文芸賞、その他

平成24年度 80歳以上の功労者略歴

(敬称略)

秋田県 佐々木 文子



昭和5年6月6日生
昭和31年川上三太郎に師事、「川柳研究」同人、幹事となる。昭和55年大館わらべの会創設、秋

田・青森親善川柳大会創設。平成2年大館市芸術文化賞受賞。平成5年秋田県芸術文化賞受賞。秋田の文芸審査員3回。平成4年秋田魁新報文化欄川柳選者現在に至る。県生涯学級講師「文化講演」など。平成20年東北川柳連盟功労賞。著書 句集「白樺」、詩集「おばな」、茶の間随筆「北の街から」「おとなりの町から」「福寿草」

東京都 西来 みわ



昭和5年6月21日生
長野県生まれ。昭和28年療養雑誌「保健同人」の川上三太郎選に投句、川柳を始

める。「川柳研究」誌友を経て昭和33年幹事同人。平成15～21年川柳研究社代表。現在川柳研究社顧問。平成13～21年全日本川柳協会理事。

句集「母子像」(夫、西来武治「菩提心」との共著)、川柳句集「たんぼぼ」、随想「風車・永遠に母は駆けてる音である」、川柳句集「ねんころり」

兵庫県 奥田 みつ子



昭和7年1月26日生
全日本川柳協会常任幹事、川柳塔社相談役、西宮北口川柳会会長

通信添削講座講師、産経学園川柳講師、川柳の会「法円」講師昭和56年朝日カルチャーセンター川柳講座受講。昭和58年川柳塔社同人。
平成8～12年川柳塔社編集長。
平成11年句集「白い梅」、平成18年句集「遠き人へ」平成19年「ピンチには

うつむかないで空を見る」

山梨県 鈴木 東峰



昭和5年1月5日生
川柳甲斐野社代表
昭和23年ごろ川柳を始める。甲府市役所に勤務しながら、川柳「あおぞら」の編集に従事。

昭和55年川柳甲斐野社を創立、現在に至る。
著書「どうしたらよい句が作れるか」

愛媛県 塩見 草映



大正15年8月18日生
全日本川柳協会顧問、愛媛県川柳文化連盟会長

愛媛県生まれ。昭和26年より川柳を始め。昭和30年川柳まつやま吟社同人。
平成8年川柳まつやま吟社代表。平成14～21年全日本川柳協会副理事長。
句集「現代川柳選集」第6巻参加。「遊心」
平成10年勲四等瑞宝章受章

平成25年版『全日本柳人写真名鑑』発刊について

日川協では全日本の柳人を網羅した『全日本柳人写真名鑑』を社団法人設立以来、五年ごとに発刊、好評を博してきました。

前回から五年目にあたり、川柳人口も飛躍的に増加している折から、さらに一段と内容を充実し、少なくとも二千人以上を収録する『全日本柳人写真名鑑』平成二十五年版を発行したいと存じます。刊行にあたっては、出版委員会を中心として全日本川柳協会が組織をあげて取り組みますが、要は一人でも多くの柳人がこの企画にご参加くださることにあります。

資格は柳人であればどなたでも結構ですので、みなさま方には一人でも多くの柳友をお誘い合わせのうえ、この画期的な名鑑に名をつらね、貴名とその作品を日本川柳史に残されるよう、お勧め申し上げる次第です。

社団法人全日本川柳協会

会長 大野風柳

出版委員長 河内天笑

一、書名 『全日本柳人写真名鑑』平成25年版
二、体裁 A5判・約300ページ
本文アート紙・美装本

三、刊行 平成25年3月(予定)全参加者に年鑑を一冊、送付いたします。

四、原稿 ①姓・柳号 ②本名 ③生年月日

④職業 ⑤所属柳社 ⑥住所

⑦電話・FAX ⑧メールアドレス

⑨自選作品3句(平成20年以降の作品)

⑩顔写真(縦横約3cmの近影、写真の裏に氏名を記入)

五、締切 平成24年12月10日(月)当日消印有効
六、書籍発送の為、住所は必ずご記入の上、個人情報に支障のある方は、備考にその旨お書き

七、参加費 4000円(振替または小為替で申込時に納入してください)

八、申込先 〒530-0041 大阪市北区天神橋

2丁目北1-11-905

社団法人全日本川柳協会

☎(06) 6352-2210

郵便振替口座 00970-9-3575

日川協加盟柳社一覧表訂正・変更

平成 24 年 1 月以降

頁	柳社名	箇所	追加・訂正・変更内容		
14	函館川柳社	会長	池 さとし 〒040-0043	函館市宝来町 34-13	TEL0138-22-1397
15	大潟村川柳倶楽部	新入会 会長	柳誌「大潟川柳」 館岡 稲風 〒010-0443	南秋田郡大潟村中央 1-30	TEL&FAX0185-45-2758
		事務所	宮田 善拓 〒010-0445	南秋田郡大潟村西 2-4-12	TEL&FAX0185-45-2344
17	川柳やまがた吟社	会長	伊東 マコ 〒990-0014	山形市滑川 2688-31	TEL023-629-2045
	山形県川柳連盟	会長	伊東 マコ 〒990-0014	山形市滑川 2688-31	TEL023-629-2045
18	土浦芽柳会	会長	谷藤美智子 〒300-0068	土浦市西並木町 3638-3	TEL029-824-7933
	龍ヶ崎雪柳川柳会	会長	矢野 義雄 〒301-0855	龍ヶ崎市藤ヶ丘 5-1-43	TEL0297-64-0291
	川柳空っ風吟社	新入会 会長	柳誌「川柳空っ風吟社」 酒井 青二 〒366-0041	深谷市東方 3676-17	TEL048-573-7452
20	千葉ふあうすと川柳会	電話番号	TEL0475-25-5751		
29	郡山川柳会	会長	岡部 幹和 〒630-8043	奈良市六条 3-13-8-1	TEL0742-45-5687
30	日高番傘川柳会	会長	高木みのる 〒649-1534	日高郡印南町印南 1625-2	TEL0738-42-0158
	うめだ番傘川柳会	会長	西山春日子 〒532-0023	大阪市淀川区十三東 2-6-41	TEL&FAX06-6308-7777
	西梅川柳会	会名変更	運輸世界新聞川柳会 →	西梅川柳会 柳誌「川柳西梅」	
32	番傘みどり川柳会	事務所	田中 螢柳 〒560-0033	豊中市蛸池の中町 2-3-1-411	TEL&FAX06-6853-0470
	楽生会	新入会 会長	柳誌「楽生日記」 上野 楽生 〒599-8261	堺市中区堀上町 478	TEL&FAX 072-278-0204
35	志麻川柳舎	新入会 会長	柳誌「川柳志麻」 楠山東石子 〒733-0812	広島市西区己斐本町 3-6-7-103	TEL&FAX082-274-0125
36	広島平和番傘川柳会	新入会 会長	淡路 猿眼 〒733-0812	広島市西区己斐本町 3-9-32-604	TEL&FAX082-942-6784
	下関一杯水川柳会	会長	上野 悦子 〒751-0815	下関市本町 1-6-9	TEL&FAX083-232-6534
	萩川柳会	会長	大場 孔晶 〒758-0061	萩市椿金谷 2908-15	TEL&FAX0838-25-1825
38	川柳さいじょう吟社	新入会 会長	柳誌「川柳さいじょう」 金子 一孝 〒793-0044	愛媛県西条市古川甲 293-4	TEL&FAX0897-53-2220
40	熊本県川柳協会	事務所	緒方 正堂 〒861-2118	熊本市東区花立 3-39-5-203	TEL096-360-5767
	大分番傘川柳会	会長	山本たつお 〒870-1114	大分市星和台 2-22-2	TEL&FAX097-569-4617
	別府番傘川柳会	会長	小代千代子 〒874-0937	別府市秋葉町 7-24-1403	TEL&FAX0977-22-7033
	耶馬川柳会	会長	泉 談亭 〒871-0701	中津市山国町榎木 2630	TEL0979-64-2127 FAX0979-64-2461
44	森中恵美子	住所	〒566-0022	大阪府摂津市三島 2-5-2-514	TEL&FAX06-6383-5146
53	小笠原望	常任幹事	〒787-0050	高知県四万十市渡川 1-1-3	TEL&FAX0880-31-1001

編集後記

★ことしの夏は例年になく猛暑が
つき高齢者の多い柳人にとっては耐
える限界を超えていた。

★日本外交が近隣国からなめられる
事態が発生して、何をしているんだ
政府はと国民の怒りも熱くなった。

★阿波の徳島で二十四年は柳人が熱
くなる。日川協の大会が六月十日に
行われ当日出席者五一七名と盛会だ
った。さらに十一月十八日には同じ
徳島で国民文化祭「川柳の祭典」が
開かれ、二つの大会が集中した。そ
の準備で日川協の事務局も大忙し
だ。

★公益法人移行作業も順調に進み、
来年四月一日発足を目指している。

★最近、どの句会に参加しても出席
者が減少の傾向にある。新規加入者
対策を真剣に考える時期が来とい
る。

(事務局長 本田智彦)